

(第二表) 聯合會別組織成績表 (〇増×減)

聯合會名	年 別				増 減
	昭和五年	昭和六年	昭和七年		
東京聯合會	14,280	17,173	16,816	×	357
神奈川聯合會	5,387	6,561	6,634	○	53
地方部(關東)	3,111	2,919	3,089	○	170
大阪聯合會	7,223	12,032	13,139	○	1,107
兵庫縣聯合會	2,816	2,505	2,687	○	182
京都聯合會	830	916	997	○	51
中四聯合會	1,374	1,291	1,477	○	186
九州聯合會	1,382	1,924	2,988	○	1,064
愛知縣聯合會	437	888	1,636	○	745
地方部(關西)	765	320	4,622	○	4,322
本部直屬組合	3,979	2,859	2,622	×	237

(第三表) 産業別組織状態

産業別	年 別							前年増減 (本年増減率)
	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年		
機械金屬 鐵工、機械、電氣 製鋼、銅索	15,240	16,246	14,594	14,242	15,244	15,359	115	
纖維工業 紡績、織布、染 色、製絲	9,570	6,900	6,873	7,990	6,674	9,918	274	
交通運輸通信 自動車	1,345	3,265	4,286	4,465	4,960	2,393	2,522	
窯業 セメント、硝子、煉 瓦、陶業	1,380	1,157	1,761	933	1,723	2,335	612	
鑛業 石炭、石油	410	217	567	614	1,014	1,243	199	
雜工業 製材、紙、革、出 版、食料品、其他 一般雜工業	9,270	10,764	9,436	10,813	11,574	10,703	5,123	
合 計	37,205	38,549	37,517	39,067	44,219	47,986	3,767	

右の如く、組織運動の成績はざりしも、第一表にも明かなる如く、一〇三の工場、(その總従業員数の概算九二、八五〇名に上る)の中へ、新に組織を持つことの出来たことは、將來の發展を約束するものとして、最も注目しなければならぬところである。

思ふに、今日の如く深刻なる不況時代に於ては、労働組合の組織運動は、大體に困難なりと言ひ得べく、世界各國の事實に就ても認めらるゝところである。同時に、本年二月の總選挙、更に東京、神奈川、千葉、埼玉に於ける一月及六月の府縣會選挙等に、組合が忙殺されたことも、不成功の原因として指し得らるゝと思ふ。特に工場地帯たる神奈川縣に於ては、前記二選挙に加ふるに九月には川崎市會議員の選挙あり、殆んど一ヶ月間を選挙で暮したる結果となつた。深甚なる注意を喚起しなければならぬ。

然し乍ら、我々はこの十萬突破運動を通じて、「労働組合主義の徹底」が、如何に組織運動の根本的條件であるかを痛感したのである。これなくしては、單なる組織は砂上の樓閣である。十萬突破運動の一事業としてより根本的な基礎工事として、「労働組合主義徹底」の具體化を圖らねばならぬ。

不 成 績 の 原 因

新加盟組合及脱退、解散組合

新加盟組合左の如し
 東京整裝工組合 生保従業員組合 露橋労働組合
 愛知合同労働組合 中部紡織労働組合 京都金馬労働組合
 神戸尾崎ゴム工組合 扇港染色労働組合 西日本石炭坑夫組合
 脱退及解散組合左の如し
 新川労働組合 名古屋製氷労働組合 名古屋陶工組合 長崎労働組合
 大阪仲仕労働組合(六組合)
 中部合同労働組合
 神戶合同労働組合
 名古屋時計工組合
 長崎印刷技工組合
 神戶自治會(十五組合)
 長崎労働組合